



本日 第2177回 2015年12月4日(金) No. 2062

本日のプログラム Today's Program

点 鐘

卓話者: 冨田 晃君

ロータリーソング 「君が代」・「奉仕の理想」

演 題: 「人生あれこれ」

前 回 第2176回 2015年11月28日(土) 記 録

東尾張分区

インターシティミーティング

於名鉄犬山ホテル

○斉 唱: 「君が代」・「奉仕の理想」

基調講演: RI第2760地区パストガバナー 斎藤直美君

記念講演: 帝京大学名誉教授 志方俊之氏

○来訪者: 瀬戸RC 加藤 元康君他 11名

出席者: 会員21名中11名出席 出席率47.61%

前々回補正出席率 11月13日分100%

第一部

ホストクラブ 会長歓迎の言葉

犬山ロータリークラブ

会長 奥村 正幸



東尾張分区のロータリアンの皆様、こんにちは。この度のインターシティミーティング開催に当り、犬山ロータリークラブを代表いたしまして歓迎とお礼のご挨拶をさせていただきます。



分区で順番にガバナー補佐を輩出させていただいておりますことから、2015～2016年度は私共犬山ロータリークラブが当番となり、開催させていただくことになりました。このように多数のロータリアンの皆様にご参加いただきありがとうございます。

今年度は特に東尾張分区の仲間、先輩クラブの瀬戸ロータリークラブさんから加藤ガバナーが職務を遂行してみえますので、責任と応援

幹事報告

- ・11/20 指名委員会 於商工会
古橋エツ子会長以下5名出席
- ・11/20 臨時理事役員会 於商工会
古橋エツ子会長以下7名出席
- ・次回の会合: 年次総会、第9回理事役員会
- ・例会変更のお知らせ: ありません。

病気予防と治療月間

	12月 5日 (土)	12月18日 (金)	12月25日 (金)	2016年1月1日 (金)
例会予定	11日 (金) 振替 留学生交流会 於 雅味 担当: 45周年実行委員会	卓話担当者: 井田 武憲君 卓話者: 尾張旭吟剣詩舞道連盟会長 ・吼山流詩吟道愛知県地区連合会 会長 寺坂 保夫様 演 題: 「伝統文化・詩吟の継承」	定款第6条第一節により 休 会	款第6条第一節により 休 会

の意味もございますので皆様に楽しんでいただけるインターシティミーティングにしたいとクラブ会員全員で準備をさせていただきました。インターシティミーティングは、分区内の共通のテーマで語り合い、知己の輪を広げる意義があり、懇親会がセットされる形式が普通のものでございます。今回は朱宮ガバナー補佐のもと、11年前にこの同じ会場でインターシティミーティングを開催いたしました当時のガバナー補佐小川征一IM実行委員長を中心に、充実したインターシティミーティングになるように努めてまいりました。ロータリーは創立以来、友情を大切にしていまいりましたので、会員間の友情がすべての基本であると思います。是非この機会を通して、より東尾張分区の仲間の絆を深めることができれば幸いかと思います。又、基調講演をお願いいたしました斎藤次期RI理事さんの関係から講演を是非拝聴したいということで、分区内のパストガバナー始め多数のパストガバナーにも参加していただきありがとうございます。心より歓迎申し上げます。

何かと不手際があるかと思いますがロータリーの友情でお許しいただき、有意義な時間を過ごしていただきますようお願い致しまして歓迎の挨拶とさせていただきます。

ガバナー補佐あいさつ

東尾張分区ガバナー補佐



朱宮 新治
国際ロータリー第2760地区東尾張分区インターシティミーティング開催にあたり、僭越ではございますが担当ガバナー補佐として一言挨拶させていただきます。

当2760地区の会員中、約1割になります470余名を構成して活発な活動を行っています東尾張分区のロータリアンの仲間の皆さん、そして加藤ガバナー始めご来賓のロータリアンの皆さん、こんにちは。今年度もこうして和気あいあいの中、加藤ガバナー出身分区のインターシティミーティングを開催することが出来たのも皆様方の日頃のロータリーへのご理解、ご協力と感謝いたしております。今年度はまもなく半期の終わりを迎えますが、年度に入りましてからの補佐訪問では大変お世話になりました。そしてガバナー公式訪問、地区大会が遂行されてまいりました。特にワールドフード+ふれ愛フェスタでは、分区ブースの出展につきましては各クラブのご協力に大変感謝いたしております。ありがとうございました。

さて各クラブに於かれましては、加藤ガバナーの方針「ロータリーの原点に学ぶ～友情と寛容の輪を広げよう～」を基に、素晴らしい様々な

活動を推進されておられると思います。

振り返れば1905年に4人の仲間とポールハリスがロータリーを始めたわけですが、ポールハリスは、ロータリーの考え方は人によって違いますが、「ロータリーがより寛容で、より他の人の良さを認め、より他の人と親しく交わり、助け合うようにしてくれるなら、そして人生の美しさと喜びを発散し、伝えるようにしてくれるなら、それが我々の求めるロータリーの全てである。それ以上ロータリーに何を求めることがあるのか。」と非常にヒューマンイズムの精神に富んだ言葉を述べております。このロータリー創立時の思いからきくと加藤ガバナーは地区方針を立てられたことと思います。また今、日本でもっと必要なのは、ロータリーの心、ロータリーの精神と言われていると思います。会員数の減少、出席率の低下の原因として、一つにはロータリーが基本からだんだん離れてきた、その為ではないか。だから我々は基本に戻らなければいけないということを、元RI会長のビチャイ・ラクタルさんが強調されておられましたことを思い出します。私もロータリーの魅力は、ロータリーの心と原点を再確認し、ロータリーの基本に返ることによって得られるものと思います。ロータリークラブは、知人の集まりでなく、友人の集まりです。友情を大切にしたい、それが全ての基本になると思いますが、皆さんはどのように考えられますでしょうか。

インターシティミーティングのテーマをロータリーの基本を礎にして「前に歩もう」と提唱させていただきました。この度「原点回帰」というロータリー書籍も出版されておられます、2760地区から初のRI理事に就任されます、斎藤パストガバナーに基調講演をお願いして、私達が今一度ロータリーについて再考慮できればと企画させていただきました。さらに記念講演として「新しい時代の脅威と我が国の対応」のテーマで元陸将の志方俊之先生をお願いいたしました。きっと興味深いお話を伺えると思います。その後の懇親会では地区内のパストガバナーさんもお参加いただいておりますので、輪に入ってもらい、分区内の皆さんの友情を更に深めて頂ければ幸いです。また今年度はより分区の懇親を深める為に、東尾張分区懇親ゴルフ大会を久し振りに来年3月17日に開催させていただきますので是非ご参加いただきますようお願いいたします。

終わりにあたりこのインターシティミーティング開催に関して、瀬戸ロータリークラブの加藤令吉直前ガバナー補佐はじめ多くの先輩、そして12クラブの会長、幹事さん方からの親身あるご指導と、ご協力に改めて深く感謝申し上げますと共に、ご参加の皆さんに楽しんでいただけますことを心より望みまして挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

第二部

基調講演

国際ロータリー第2760地区パストガバナー

斎藤 直美

テーマ「ロータリーと私」



朱宮ガバナー補佐様、小川実行委員長様、IMの開催おめでとうございます。ともすればIMを避けたがる昨今の風潮の中で、その開催を実行

されましたことに心より敬意を表します。IMは、日本全地区全分区に於いて先輩諸氏が努力して築き上げ継承してきた、日本ロータリーの偉大な財産・文化です。後輩ロータリアンに引き渡したい学習と地域交流の場です。

さて、本日私に与えられたテーマですが、IMにふさわしいものかどうか苦慮しますが、一介のロータリアンの私的物語としてお耳を拝借させて下さい。

私は、1979年2月に豊田RCに入会させていただきました。日本青年会議所(JC)を卒業してすぐの入会です。ロータリーをよく理解しないまま3年、5年と過ぎました。この間2回退会届を提出しましたが、説得され思い留まりました。それを契機に20年間ランチタイムメンバーとなりました。

1999年に順番だから、と副会長に任命されました。副会長が1年6か月後会長になることは全然知りませんでした。ロータリーの組織ルールを知らなかったのです。そのうち解ると言われ続け20年経っても何も知らずに来てしまったわけです。ですから、クラブ会長就任予定はショックでした。何をしようかとまどうばかりでした。そんな時に偶然手にした本が、松井幸雄PG(芽室RC)著「ロータリーに関する十四の断章」と、小堀憲助(中央大学教授)著「ロータリークラブ」の2冊でした。目からウロコの取れた私は、以降ロータリーに関する文献をあさりしました。当時(1960～80年代)は、各クラブがこぞってロータリーの学習を行い競って本を出版していましたので、各クラブにお願いして出版された御本を御恵送いただきました。それらをむさぼり読み、実に楽しい2年6ヶ月でした。その間に、ロータリーの師と仰ぐ2人のPGさんとの出会いがありましたが、お1人は紋別港RCの田巻明男さん、もうお1人は大村北RCの佐古亮尊さんです。ですから、会長になった時には「ロータリーの樹」を我流で不出来とは申せ、一応書き上げ得意気でした。そして、そのまま猛進してクラブ運営を行ったものですから、クラブを白けさせてしまいました。そんな事態を反省もせず、ガバナーを拝命してしまいました。

就任して直ちに地区の組織の整備と強化を行いました。頭でっかちの私は各委員会の委員長さんにやんわりと修正案を提示されたり新しい方針をつきつけられたり、恥ずかしい思いばかりでした。自分が

独学で学んだロータリーとロータリープログラムを実行している(奉仕活動をしている)委員会との乖離にあせったり、落ち込んだりしました。しかし、ガバナーとしてパストガバナーとしてやるべき案件を精力的にこなしているうちに、次第に奉仕活動が楽しくなっている自分に気づきました。とりわけ、全国の青少年交換委員会活動に関与させていただき、全国一つになって力を合わせてこのプログラムを推進することに生き甲斐を感じていました。

ところが、大きな難題が発生しました。RI理事の拝命であります。私は、パストガバナーになって青少年交換プログラムだけに関与して、RIのロータリーの全体像、直面しているテーマ、財団の方向性など未習熟だったので慌てました。またしても文献集めと独学が余儀なくなったのです。でも、知らないことを紐解くことは楽しいことで、只今学習中であります。

次に、現時点での日本のロータリークラブの緊急テーマの1つは「戦略計画」と考えられます。これは、私が学んできた日本のロータリーの考え方や方法論を大きく変えるものです。DLP、CLPなどが導入され、地区やクラブの組織の簡素化と機能別委員会の整理が進みましたが、戦略計画はさらに奉仕活動の特化が推奨されています。単純明快にクラブの奉仕活動のある部門を専門化しようとする方法論(手段)であると考えますので、この計画をクラブに導入することは簡単です。しかしこの手段を推し進めるためには、ロータリー哲学やロータリアンとしての自覚をメンバー同志で確認しておく必要があると考えますので、やっかいと言えやっかいなテーマです。つまりロータリーは変化しているとは申せ、方法論の話なのです。戦略計画に基づく計画を実行しながら奉仕を続けるプロセスの中で、ロータリアン自身が脱皮成長することが期待されているのです。その辺のことを十分に認識しておく必要があるようです。IMは様々な切り口でロータリーを論じ、会員に問題提起をするとてもよい場だと思えますので、東尾張分区特有のIMスタイルを確立されることを念じてやみません。本日はおめでとうございます。



第三部

記念講演

帝京大学 名誉教授 志方俊之

テーマ「新しい時代の脅威と我が国の対応」

1. 概要

国家にとって脅威を見積もる場合に重要なことは、見積もる際に基準とする「三つの時間軸」である。すなわち、「今そこにある脅威」、「中期的な時間フレームで見積もるべき脅威」、「長期的な時間フレームで見積もるべき脅威」である。時間フレームによって見えてくる



脅威が多
いからであ
る。

(1) 「今
そこにある
脅威」には
大規模自然
災害・大規
模事故・大

規模テロ、大規模感染がある。3. 1 1 東日本大震災は、地震被害と津波被害、これによって起きた原子炉事故災害と風評被害が複合した大規模災害であった。原子炉災害対処は目下進行中で、終息（何をもって終息とするかさえ多くの考え方がある）するまで何年かかるかわからず、それまでに余震が起きる可能性もあり、予断を許さない。

●パリの中心部で起きた同時多発テロは、フランスのみならず欧州社会を震撼させた。I S（自称イスラム国）によるテロは珍しいことではなかったが、テロリストの一部がシリアからの難民に紛れてベルギー経由で潜入したことが判ってきたことから、難民受け入れに反対する声も大きくなった。一般に、わが国においてテロは起こり難いと思われているが、地下鉄サリン事件は、「事件」ではなく、世界初の大規模化学「テロ」であった。福島第1原発の事故は、原子炉そのものを襲撃しなくても原子炉に至る外部電源の送電線を切断すべく襲撃すれば、あるいは巧妙なコンピューター・ウィルスで原子炉の制御系に送り込んで冷却機能を混乱させれば、テロの目的を達する可能性があることが明らかとなり、原子炉に至る送電線がテロ・グループの格好のターゲットになり得ることを世界に示すこととなった。

●西アフリカで派生した「エボラ出血熱」は大規模な感染となった。現時点では終息したが、感染者22, 525名、うち死亡9, 004名、死亡率40%であった。また多数の患者が出た現地は外界から隔離され、孤立した人達が危機感を持ち、大きい社会問題となった。韓国では中東からの帰国者の中に「中東呼吸器症候群(MERS)」の患者がおり、ソウルを中心に大規模感染(死亡37名)が発生した。

●アルジェリアのイナメナスでは天然ガス精製プラントがテロ・グループに襲撃(2013. 1)され、10人の日本人が犠牲となった。エジプトのシナイ半島にあるリゾート地シャルムエルシェイクから飛び立ったロシアのメトロジェット9268便が墜落(2015. 8. 31)した。I Sの犯行声明もあったことから、テロによる爆破と断定し、ロシアはシリアの反政府軍やI S勢力への大規模な空爆に踏み切った。フランスはパリでのテロを「戦争」として捉え、空母を派遣して、これまた大規模な空爆に踏み切った。この緊張状態のなかトルコ軍は領空侵犯したとみられるロシア機を撃墜し、反政府系部隊は救出に向かったロシアのヘリも撃墜した。当該国はもちろん国際社会にもこれらを鎮静化する有効な手立てが未だ見つからないのが現状である。

●わが国の海外長期滞在者は約78万人に登っており、そのうち中東とアフリカ諸国に滞在している邦人は約15, 000人である。これまで、自衛隊は安全が確保さ

れた地域における海路(港湾)と空路(飛行場)での「非戦闘員緊急避難行動(NEO)」に参加し得るとしてきたが、今回の平和安保法改正により、「駆け付け警護」が容認されることとなった。

(2) 「中期的な時間フレームで見積もるべき脅威」は、わが国に近い地域にある軍事力がわが国の安全を脅かす直接的な脅威、すなわち「核と弾道ミサイルを持つ北朝鮮」が軟着陸し得るか、不安定に向かうかの問題である。軍部の支えを背景にして世襲による権力継承を行って新しくスタートした金正恩新指導部のリーダーシップは、未だ安定しているとは言い切れない。金英鎬 参謀長の突然の更迭に続き、参謀長の更迭が連鎖している。さらにナンバーツーだった「張成沢(チャン・ソンテク)国防副委員長」を突然処刑するとともに、その一派を粛清した。最近では中国が行った抗日戦争勝利記念日の軍事パレード(2015. 9. 3)に北朝鮮代表として参列した側近の「崔竜海(チェ・リョンヘ)労働党労働団体担当書記」が更迭(2015. 11. 13)された模様である。今後、指導部および軍部内の内紛等が表面化し、半島情勢が不安定化する可能性も残っている。

(3) 「長期的な時間フレームで見積もるべき脅威」は、グローバルな戦略環境の変化が、周り回ってわが国の安全を脅かす「間接的な脅威」である。今すぐと言うわけではない「長期的な脅威」である。一連の権力闘争を経て新しく習近平体制は発足したが、直面する課題は多い。汚職、貧富の差、社会不安、教条主義等との闘いを旨く進め、かつ軍部を文民統制(シビリアン・コントロール)しなければならない。高度経済成長している間はまだしも、このところ経済成長は鈍化している。とくにシャドウ・バンキングや低迷する不動産価格の問題への対応を一歩誤れば、「バブル崩壊」に直面する可能性もある。果たして、習近平体制は「改革開放の深化(=経済成長と格差是正)」という最も困難な課題を解決し、「持続性ある経済成長」に舵を切ること成功するであろうか。

●天安門広場で起きた車両突入炎上事件(2013. 10. 30)、山西省の省都太原では共産党省委員会のビル前で複数回の爆発事件(2013. 11. 6)、中国の雲南省昆明市駅で刃物を持った集団によるテロ事件(2014. 3. 1)、新疆ウイグル自治区では、習近平主席が訪問中、中心都市ウルムチの鉄道駅で爆破テロ事件(2014. 4. 30)が起きた。また広東省広州市の広州駅前でもテロ事件(2014. 5. 6)が起きている。新疆ウイグル自治区やチベット自治区における少数民族問題は必ずしも安定しているとは言えず、依然として危険を孕んでいる。いずれも少数民族の取り扱いに関し人民の中に現指導体制への不満が蓄積されていることを物語っている。

●高度経済成長の末期に近づいた中国は、「核心的利益」と称して南シナ海、とくにベトナムとフィリピンに対して海洋の現状を力によって変更し、西太平洋におけるプレゼンスを強化させる「富国強兵路線」を採り、軍備の近代化に邁進している。宇宙技術では衛星攻撃兵器(ASAT)の実験に成功(2007. 1. 11)するとともに、無人探査機「嫦娥3号」を成功(2013. 12. 14)させた。

●オバマ大統領は2016. 11月に迫った議会の中間選挙を控え、アジア重視の姿勢を現実に見せるため、東アジア地域を歴訪し、米国の各国に対する安全保障のコミットメントに揺るぎがないことを表明した。特筆すべきは、尖閣列島は日米安保条約第5条の適用範囲に入ることを自らの口で表明したこと、および米軍をフィリピンに再駐留させることである。しかし、南沙群島では七つの岩礁を人工島に造成し、その一部には3000メートル級の滑走路を建設するなど、軍事基地化して既成事実を作らんとしている。オバマ大統領の決断は約二年遅きに失したと言われている。

●中国が向かうコースは大きく3つある

①わが国を10倍にしたような共存共栄できる民主国家に進むコース（これが最も望ましい）

②軍事的覇権を追求するコース（核の脅威、シーレーンに対する脅威、東南アジアのフィンランド化）

③大乱の中国となるコース（辺境地域の分離独立・貧富の差に起因する大乱、大量難民）

わが国としては、中国が三つの内のどのコースを辿るにせよ、三つのコースのそれぞれに対応できる公約数的な対応が必要である。「状況の変化に注意して進む(Proceed with Caution)」ことが大切である。いま中国は経済的に大躍進しつつあるが、その前途に幾つかの難しい問題を抱えている。

●米中は 同床異夢の戦略的共存：当面は経済における中国との相互依存関係を重視

前提とする米中関係は？→→（太平洋を二分する相手としての対中観）

→→G

2（異質であるが故に相互に重要とする考え）

●長期的には軍事的脅威（例えば対艦弾道ミサイルASBM）となり得る

●友好は同じ考えを持つことではなく、違いを認め合うことから始まる。

●常に国際法に則る凛とした対応をし、鋭敏に反応せず相互に自重することが大切。

●中国が向かうコースによって日本の対応は異なる。

このように、21世紀はわが国の能力や持ち味を活かすことが難しく、かつ、われわれが考えていたより厳しい国際環境になる可能性もあることから、情勢の変化を先取りして危機管理・防衛・安全保障体制を構築し、安心と安全の国造りに着手しなければならない。

2. これからの国際社会に共通する「安全保障」のキーワード（深刻な問題）

●20世紀は、「革命」と「戦争」の世紀であった。その根底には「現状を維持したい国家・勢力」と「現状を変えたい国家・勢力」との闘争があった。この闘争は、新しい形で21世紀にも続くと考えられる。

●21世紀は、「格差拡大」と「是正闘争」の世紀となろう。ここに「格差」とは次のようなものである。

－核保有国と非核国との間の国際的発言力の「格差」は大きくなるばかりである。(Nuclear divided)

－資源産出国と資源依存国との間の国力の「格差」は大きくなるばかりである。(Resource divided)

－高度な技術を駆使できる国とできない国との「格差」は大きくなるばかり。(Technology divided)

－国家的情報収集組織を持つ国と持たぬ国との格差は大きくなるばかり。(Information divided)

－価値観の共有は難しく格差をつけられた国は価値観の相違を狂信するようになる。(Value divided)



●「パワー・シフト」、「パラダイム・シフト」、「テクノ・シフト」が同時進行することにより、21世紀はわが国の良さが活かされない「不安定」かつ「不確実」な時代tが到来する。

3. わが国が存立する上での四つの必須要件

(1) 資源保有国が、わが国に喜んで資源を供給してくれること（年間約8億トン）

●わが国の資源依存度

①エネルギー自給率：4%（原子力を輸入とした場合）、19%（原子力を国産とした場合）

②食糧自給率：約40%（カロリー・ベース）

③水自給率：46%（仮想水：バーチャルウォーター・ベース）

(2) 資源保有国からわが国へ至る長大なシーレーン（約6000海里）に沿って紛争が無いこと

(3) わが国は、その資源に付加価値を付けて競争力のある工業製品（1億トン）を作り得ること

●そのための鍵は、

①他の追随を許さぬ高度な技術（他の工業国がとてもしない高度な製品やシステム）

②勤勉な労働力（雇用システムの刷新）

③安全・安心な社会秩序（結局は教育の問題に帰する）

(4) 多くの国々が、わが国の製品を買ってくれること（邪魔する国々が出現しないこと）

●わが国ほど世界中が平和であることを必要とする国はない

①わが国が平和であることは「必要時要件」であっても、それだけでは「十分条件」ではない

②わが国は平和のために何をすればよい？（資金提供だけでは済まない）

③最大の脅威は国際社会における孤立である（高い発信力と国際的リーダーシップの発揮）

④自国を危険にしない努力、及びそれと同じ程度に国際的責務を果たすべき

●「貢献Contribution」する日本から「責務Obligation」を果たす国への転換

わが国は21世紀における「国家像」→→→（坂の上の雲）を自ら創り出す必要がある

→→→→平成の

改革（未知への挑戦）

我々は最も難しい改革に挑戦している。その鍵は、→→→国家像（坂の上の雲）の決定

4. 平成維新における国家像（坂の上の雲）の一例

（1）道義国家、弱きを助ける尊敬される国

新しい社会規範（世代間の共生社会、富の再配分、調和した個人主義）を確立し、先導する

（2）知の大国（先進科学技術国家）

宇宙開発・海洋開発・原子力エネルギー・農業・医学・材料・新エネルギー開発など

基礎的な先進巨大技術開発への体制整備

（3）安全・安心の大国（危機管理国家）：「危機管理障基本法」、「国家緊急事態」について憲法改正

（4）情報大国：「国家情報組織」の創設・「情報管理基本法」の制定

●武士道の5要件

（1）武士は、強くなければならない。

（2）武士は、自分から先に刀を抜いてはならない。

（3）武士は、弱きを助けなければならぬ。

（4）武士は、為したことを恩にきせてはならない。

（5）武士は、為した後、黙って立ち去るべし。しかし武士の立ち去った後には 華の香りが残る。

第四部

次期ガバナー補佐あいさつ

次期東尾張分区ガバナー補佐



古田 嘉且
ご紹介頂きました、江南ロータリークラブの古田嘉且でございます。この度、ご縁あって、次期東尾張分区ガバナー補佐を仰

せつかり、務めさせて頂くことになりました。皆様には、大変お世話になりますが、どうぞよろしくお願い致します。

まずは、本日のIMが、朱宮新治ガバナー補佐、奥村正幸会長、小川征一IM実行委員長はじめ 犬山ロータリークラブのお世話で、盛大に開催されましたこと、心よりお慶び申し上げます。

ところで、国際ロータリー第2770地区中村靖治パストガバナーの言葉に、『玉虫色というのは、いろんな色が重なり合い、微妙な、色を作り出します。個性が集まってこそ、初めて、クラブに、玉虫色の特性を光らせます。』とあります。

ロータリーに対する考え方、関わり方は、ロータリアン各自、様々であり、同様に、その集合体であるクラブにも、色があります。分区内12クラブ12色が、絶妙に融合し合い、光り輝く東尾張分区色になり、より

効果的に運営されますよう、お助けが出来ればと思っています。

特に、ガバナー補佐訪問、IM等を通じて、クラブレベルを超えたロータリーのビジョンを共有し、ロータリアン同士のネットワークを広げ、親睦を深めて頂けるように、心掛けたいと思います。

ガバナー補佐という職責を、十分果たすことが出来るか、不安ですが、自分なりに、誠実に、一生懸命、力を尽くすつもりですので、皆様のご指導、ご協力をお願い申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。

お世話になりますが、どうぞよろしくお願い致します。



△加藤陽一ガバナーの挨拶



△講演中の当クラブ会員



△当クラブ参加者

